

おんくみびと

会報 第三十号

発行日 平成十五年五月二十一日
 編集所 南洲吟道会広報局
 発行人 理事長 吉 永 洲 神
 〒165-0005 東京都中野区白鷺一三四一五
 (株)日本吟道学院南洲吟道会
 ☎ FAX 〇三(三三三〇)七〇〇九

南洲吟道会創立30周年記念

吟道感謝の集い(仮称)期日と会場決定

皆様待望の30周年記念大会は、標記タイトルの下、次のとおり開催される予定です。

期 日：平成16年5月2日(日)
 場 所：東京・中野サンプラザ・鳳凰の間

本会理事会(三月二十九日)にて、次のとおり実行委員が選出されました。

委員長：松本龍江
 委員：西本龍秀・川村龍暢・有坂龍煌・児玉智龍・
 広瀬正龍・中島昭龍・山岸志祥・山内雄祥

会員挙って協力し、無事成功させましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

本部だより

☆平成15年度

本学院年度会費ご協力について(御礼)

- ・本学院法人正会員の皆様方、本年度も会費納付についてご協力を頂き感謝申し上げます。
- ・4月12日開催の理事会において、平成15年度本学院法人正会員として新たに加入された次の方が承認されました。

- 一、橋本 章祥(八王子会)
- 二、先崎 博祥(八王子会)

・年度末に辞退者があったため本会の正会員数は、昨年と同じく99名(あと一人で百名)であります。
 ご協力有難うございました。

・一般会員の方と合わせて、前年よりも会員総数が若干減りましたことは残念であります。平成15年度は、一名でも多くのよき同志をお誘いしていただくよう、重ねてお願い申し上げます。

・この機会に、日本吟道学院のなかで本会の占める位置(地位)及び統計的に分析した本会の現状をお知らせいたします。

- 一、全会員数……………全国第九位
- 一、正会員数……………全国第四位
- 一、60名以上の正会員を擁する
 認可団体のうち正会員の占める割合……………全国第一位
 会員各位のご尽力に、改めて厚く御礼申し上げます。
 (理事長)

本会の現況

14.11.8現在
 ()は14.5.8現在

区分	男子	女子	全体
男女比(%)	46.1 (45.9)	53.9 (54.1)	100.0 (100.0)
平均年齢(歳)	63.4 (63.6)	63.1 (61.9)	63.2 (62.7)
伝位別平均年齢	総伝以上	70.5 (67.0)	70.6 (69.5)
	秀伝以上	67.4 (65.4)	67.4 (67.7)
	皆伝以上	68.5 (69.1)	70.3 (70.0)
	奥伝以上	63.0 (63.3)	62.6 (63.1)
	中伝以上	59.9 (61.6)	57.7 (59.6)
	初伝以上	54.0 (56.8)	65.3 (63.4)
	初段以上	65.3 (53.8)	55.4 (55.5)
無 段	57.7 (56.1)	62.6 (60.4)	61.1 (58.8)
幼 少年	13.0 (13.0)	10.7 (10.0)	11.3 (10.8)

平成十五年度春季昇段審査 結果報告

四月二十七日(日)本会春季昇段審査会が、中野区鷺ノ宮地域センター3階に於て肅々と実施され、次のとおり審査決定されました。

一 般 の 部										少年の部	
十段	秀伝	九段	皆伝	四段	三段	初伝	二段	初段	初段	初段	初段
一名	二名	二名	十三名	七名	三名	三名	二名	一名	中	初段	一名
範	教	助教授	総	七段	奥	六段	五段	三段	八段	八段	一名
師	授	授	伝	段	伝	段	段	一名	準師範	師範	二名
二名	名	三名	一名	六名	六名	三名	一名	三名	師範	師範	名
計			計			計		計		計	
二十四名			三十八名			八段一名		二名		一名	
総本部審査委員 会をへて昇段 (指導局)											

☆ 新入会員ご紹介 どうぞよろしく!!

- 渡辺 義江(瑤洋) 会員No.六八四(15・3・1付)
〒一九三〇九四四 八王子市館町一〇九七二一五(四〇四)
- 荒本 美好(瑤洋) 会員No.六八五(15・3・2付)
〒一九七〇八二三 あきる野市野辺二一八一四
☎〇四二六―六三―七七六八
☎〇四二―五五八―二三六〇

☆ 住所変更のお知らせ

次の方が住所を変更(平成十五年一月八日)されました。お手持ちの名簿を修正して下さい。

- 吉田 希祥(座間会) 相模原市上鶴間三丁目十二―二
〒二二八―〇八〇二

吟士権を頂いて

龍陽会第二教場 菊田 正龍

お蔭様です。龍陽先生、皆様ありがとうございます。ただ吟士権者の実感はありませんが、先ずは当日、南洲吟道会の皆様よりパワーを頂きました事に、厚く御礼を申し上げます。ければなりません。

「薫が天まで飛び上がるには、送り風より向かい風」
決戦一週間位前になりますが、TVから流れて来た歌の歌詞。ポケッとしていた私の思考回路に飛び込んで来ました。詩。ポケッとしていた私の思考回路に飛び込んで来ました。「ソ!そうか、頑張らないと。」何と単純でマンガチックと思うのですが、そんな思いで迎えた十二月一日でした。

ここ一年、数々のコンクールに挑戦したのですが、思う様にいかず失敗を重ねておりました。来年の運を前借りして等々、運を当てにして、逃げの気持ちの自分がおりました。そんな胸中に入って来た言葉でした。

「愁思」は何回か挑戦吟として吟じて来たのですが、処理出来ないところが多々ありました。特に「雲を排して」をどうすれば……



凛として舞台に立つ、菊田正龍さん。(右上) 総裁先生から、認定状を受ける菊田正龍さん。いずれも、佐藤廣城さんの撮影です。



が私の課題でした。本番はどうなるのか? 龍陽先生から教えて頂いた留意点を、反復しながら舞台袖に立ちました。目をつむり「皆さん私にパワーを下さい。」自然に出てきた思いです。本番ミスはありましたが、胸の中にしまっていて結果発表を待ちました。その時、何故か不安な思いでいっぱいでした。一位と言われた時、素直にウレシイ!!と思いません。と同時に「ズシッと重たい」。今までのように逃げられない、我がままは言えない等々の思いが複雑に去来していました。冷静になった今、私は私、何も変わらないのだけれど、前に向かって精一杯頑張ろうと思っっています。短期集中型を用意周到型に変える必要性を実感しながら、一吟一吟、吟と向かいあって教えて頂き、体調に留意していきたいと思っております。少々欲張りで忙しいのが不安です。

詩吟名人会 青壮吟士登竜門によせて

龍陽会第一教場 永田 遊城

二月二十二日に催された詩吟名人会は、青壮吟士登竜門コーナーで幕が開いた。次々と熱唱が響き、愈々最後の十三人目の私の出番が来た。洲神先生はじめ二十八名の方々温かい応援を頂いて「黄鶴楼にて孟浩然が広陵に之くを送る」を心を込めて吟じた。

李白のこの詩に初めて出会った時から可成り魅かれ、李白のこの詩に初めて出会った時から何故か心魅かれ、詩吟を習い始めて吟じてみることに、益々好きになった。そして、いつの日か黄鶴楼に登ってみたいと思っていた。

念願叶って武漢より長江大橋を渡り、蛇山の上に建つそれを目の当たりにした時は、思わず息をのみ唯々圧倒されました。何という壮大さ! 五層の美麗な壘を鶴の両翼のように広げて聳えるその姿は堂々と力強く、日本で想像していた瀟洒な感じの楼とはまるでスケールの異なるものであった。度々建て直され李白の時代のものとは比べる術もないが、楼上より望む悠久の流れは李白の詩そのまゝの光景。長江流域特有の霞んだ大地と黄濁した流水は接点を失い正に天際にながるゝが如し。飛行機も汽車も無かった時代、この大河の流れを往く親友孟浩然を見送る李白の胸中が伝わってくるようで、しばし詩文の世界に浸ることが出来た。

こんな思い出深い「黄鶴楼にて孟浩然が広陵に之くを送る」を浅草演芸館の舞台で吟じさせて頂けるまでに御指導下さいました洲神先生、龍陽先生はじめ諸先生、諸先輩吟友の皆様に深く感謝致します。

(「お見事です。……洲神先生のご感想です。」)

名人会紅白ペア対抗戦

龍陽会第二教場 内山 陽城

舞台上立つ前はいつも「最後までしっかり吟じられますように!」と願をかけて出るので。この度の紅白ペア対抗戦

も、少なからず「きちんとできますように。」という気持ちと使命感を持って、今、自分の持つ力でベストを尽くそう、と思つて居りました。しかし、練習の成果の半分も発揮出来ない中途半端な吟でした。

この欠点だらけの未熟な吟の繰り返しの原因は、私の気の弱さが精神統一を欠いているのです。それでも、詩吟に対する情熱だけは強く持っています。まだまだ努力が足りない、自分に甘すぎると思つて居ります。

これからも、より一層の精進を怠らず精神が萎んでしまわないように、「一念天に通ず」の心境で頑張らなければと思つて居ります。沢山の方々が力強い応援をして下さいました事に、心より感謝申し上げます。

洲神先生・龍陽先生の心暖まるお心配りと、ご助言をして頂きました事、厚く御礼申し上げます。有難うございました。

※「一念天に通ず」どんな事でもそれを成し遂げようという固い心があればその真心は天に通じて必ずできるものだ。の意

絶対練習して上手になりたい、なるのだと念じていこうと思つているのです。

女流吟道大会に参加して

船橋教場 加藤 孝龍

第五回日本吟道学院主催の「女流吟道大会」に初めて参加させていただきました。六月二十三日、会場の江戸川総合区民ホールは、関東地区は勿論のこと、秋田や青森、北海道の室蘭からも参加があり、女性の輝く吟舞台が展開されました。私は久しぶりに興奮と緊張感を味わいました。

南洲吟道会の四十三人の大合吟の中に、船橋、習志野地区より七人の参加です。その中で三人が初デビューを果たしました。

特に持永泰洲さんは、この時「青春抄」を精一杯吟じて、胸熱く皆さんに心を重ねられたのではないかと想います。今は亡きご主人の真の応援の中で……

どの人も、どの団体も、好い顔で表現されていて幸せそうでした。

吟詠組曲の「樋口一葉の生涯」も立派な構成で素晴らしく、また南洲吟道会は会長先生はじめ皆様本当にお見事でした。終わってしまった今は、楽しかった一日に感謝です。

紅白ペア対抗戦に参加して

中町会 小泉 芳城

紅白ペア吟詠対抗戦に出吟の機会を頂き、嬉しく拝受しました。吟題は『弘道館にて梅花を賞す』で、決戦日は二月二十二日、まさに梅の時節です。

ペアのお相手は南洲吟道会のホープ、内山陽城さんです。これは大変、頑張らねばと、それからは月月火水木金の練習が始まりました。

なかなか思うようにいかず焦っていた時、洲神先生の講話

を思い出しました。初代津軽三味線高橋竹山師の言葉として教典に書き込んであったものです。

「下手でも良いから魂を入れる。おらの出来ることをやるだけだ」。

この教えに励まされて臨みましたが、結果は力が入り過ぎ失敗でした。内山さん、ごめんなさい。

寒い中、大勢の会員の皆様が応援して下さい感謝の夜でした。何ごとも経験を積むことが大切ということをお教えたいただきました。これをバネにお一層の努力をしていきたいと思ひます。両先生、皆様ありがとうございました。

研修会に参加して

中町会 坂本 憲水

南洲吟道会の研修会が、新緑まばゆい五月十九日午後、鷺ノ宮地域センター三階ホールで、午前の総会に続いて実施されました。

会場は、吉永理事長、会長両先生の講義を受けた熱心な会員で満席となり、熱気さえ感じられました。

中町会からも全員が参加し、最後まで真剣に講義を受けました。

最初の講義は理事長先生が担当され、「祝賀」「結婚祝」に続いて、「水師宮の会見」「金州城」「爾靈山」と乃木將軍を中心にした吟詠と、現在まで知ることのできなかつたステッセル將軍やマッカーサー元帥との関係など、武人としての乃木將軍の立派なお話にて、昨年九月十三日、乃木祭奉納吟詠に才氣軍の活躍が、昨全ナ月十三日、乃木祭奉納吟詠に再参加させていただいた私にとっては、乃木將軍の偉大さを再認識することとなり、感激を新たにいたしました。

休憩後は、会長先生のご担当で、花シリーズにちなんで頼山陽の「母を奉じて嵐山に遊ぶ」、河野鉄兜の「芳野」、最後に逸名の「桜花の詞」を初心者、中級者、上級者それぞれに対する具体的な吟詠方について懇切丁寧にご指導をいただき、参加者全員大満足でした。

今回の研修会は、コンダクターを使つての実技指導にも十分時間をとっていただき、両先生の熱意と会員の向上意欲が一体となって、詩吟に対する関心を高めるのに良い機会となったことは間違いなくと確信しており、これからも一層努力して行きたいと考えております。

湊山さんと臨んだ正会員大会

中町会 木代 妙祥

今年の一月中旬、湊山さんから「正会員大会、ご一緒にどうですか」とお誘いを頂きました。未熟者の私には無理ですと申し上げましたら、気楽に楽しくやりましょうと言って下さり、お受けする勇気が湧いてきました。

吟題も『静御前』と決まり、湊山さんの足を引っ張らないように頑張ってみようと、それからは道を歩く時も『静御前』、夜寝る前も朝目覚めても『静御前』でした。毎週のお稽古でも龍陽先生のご指導を頂きましたが、なかなか先生のお考え通りには参りません。おまけに作者名を正しいイントネーションで読むことも出来なくなり、自分の気の弱さに呆

れる思いがいたしました。

その上、大会を一週間後に控えた時点で声が出なくなり、お教室の違う湊山さんとのたった一度の声合わせにもご迷惑をお掛けしました。耳鼻咽喉科にてお薬を頂き、龍陽先生にも声を出さないようにご注意を受けて、迎えた三月八日は昨夜来の雨も上がり快晴、気分も晴れやかな朝でした。

数多く出席なさった南洲吟道会の同志の皆さんの前で精一杯の舞台を勤めた後は、他の会の会員さんとも会話が弾み、次回六月の正会員大会でまたお会いしましょうと約束をしお別れました。

湊山さん、ご迷惑をお掛けしましたが、無我夢中の二ヶ月間、目標に向かって頑張る楽しさと厳しさを知りました。本当にありがとうございます。

第六回日本吟道指導者名吟大会に参加して

若草教場 岡田 美城

特別番組の吟詠歌謡で綴る「日本の魂」に南洲吟道会男性有志の方々が吟ずる「田原坂」に舞で有坂先生と共に参加させて頂きました。お稽古三昧で仕上げ二回の特訓だけでは音とも合わせる事も出来ず不安で二、三日前から夜も眠れませんでした。いよいよ当日、開場と共に座席に着置き衣装を持って楽屋に行き、不安な気持ちで化粧をし衣装を付けてリハーサルを待ちました。リハーサルの一回目はやはり上手くいきませんでした。有坂先生に「もっと強く打て!もっと踏み込んで!」打つ音が客席に聞こえないと迫力がなく何を踊っているのか解らない。」と厳しく言われてしまいました。二回目は何とか合合い、時間が来たので舞台袖に向かいました。待っている間に杖を持つ手に汗が滲み落ち着きを取り戻すように深呼吸を繰り返していました。

いよいよ舞台、開き直って「よっしゃ!」若武者ならず武者で頑張るぞ、と勢いを付けて舞台上がりました。リハーサルの時以上に吟が素晴らしかったので思いきり姥武者が発揮できました。退場した後何とか纏まったかなと、ホッとした途端に手は痛くなるわ、身体の力は抜け落ちヘトヘトになり年を感じました。でも、辞められません。私にとって吟と舞は命の糧ですから。

これからも益々吟を愛し、又吟に合わせて舞っていきたくと想っております。

会沢道神リサイタルに参加して

瑤洋教場 長友 天城

二月二日に催された会沢道神先生のリサイタルに吉永両先生とご一緒の機会に出演できましたことは、大変光栄でございました。また、女性陣の皆様の台吟と共演できましたのも、楽しい思い出となりました。

会沢先生が八十二歳になられてなお、「中今」の精神のもとに、生涯現役、生涯青春を目指して、生き活きと活躍されている姿に、心から感動するとともに、共感をおぼえました。私達は年齢を加えるにしたがって、自分を良い意味で表現

(アピール)する機会が少なくなる様に思います。芸を演じ舞台に立つことも、人の前で自分を良く表現することになるのではないのでしょうか。

私は、常に現在楽しんでるものに加えて、楽しい「何か」に挑戦してみたいという気持ちを持っています。自分出来る範囲内で、年齢相応のレベルで。但し自分が納得のいくまでの努力を真剣に続けることで...

そして、「今日という日は、今日一日しかない。今日一日を生き活きと楽しく。」を日々の目標として、生きていけたらと願っております。

詩歌投稿

俳句三題

八王子会 中島 濃祥

台風を 追い払ひけり 虫の声

落葉かき まぶしき富士の 夕焼かな

老農や ついの住家の 木守柿

俳句

八王子会 先崎 博祥

吟声や 如風花片を 舞わせいで

啄木鳥が 叩く疎林遠く 煙立つ

銀色の 穂波遠く 富士沈む

銀色の 穂波遠く 富士沈む

刈田野を 赤き尾灯の 終列車

(作者注:如風とは心の風という意味)

枯梅の 明星しかと とらえけり

献^レ八王子会創立十五周年

八王子会 脇 成城

八王子会逸材豊 八王子会、逸材豊かなり

聞説洲神傘下雄 聞くならく、洲神傘下の雄なりと

幾度吟来今古賦 幾度か吟じ来たる、今古の賦

更重精勵練磨功 更に重ねん精勵練磨の功

(上平声一東韻)

編集後記

新緑の候となり、清々しい時節を迎えました。昨年の暮れより、沢山の行事にそれぞれが意欲的に参加し、取り組んで参りました。4月の昇段審査、5月の総会並びに温習会と、15年明けから数えても、目白押しの行事を無難に消化できた事は、会員の皆様方のご協力の賜と深く感謝申し上げます。会報発行も30号となり、年々その質、量とも充実した内容として皆様のお手元に配布できました事は、偏に皆様方のご協力の賜と感謝申し上げます。年に何回発行するか、何時発行するか等かねかねお尋ねのある所です。皆様方のご意見を頂きながら決定し、決まり次第広報誌に掲載させていただきます。今回は、教場めぐりの原稿がなく、各教場の現況をお伝え出来ませんでした。広報局からのアピールも足らなかったと反省しております。次回より「教場めぐり」については、会員名簿に記載されている教場順に掲載して参りますので、各教場の責任者(幹事長)の方、ご自分の教場の番になりましたら、是非投稿下さるようお願い申し上げます。(広報局長・広瀬)